



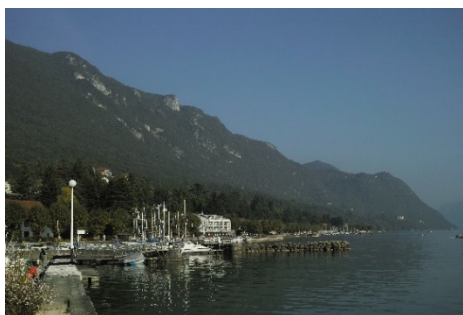
●学部・大学院生 13,000人 ●教職員 1,260人 ●留学生 1,200人

ホームページ <https://www.univ-smb.fr/en/>

交流協定締結年月日：2000年3月24日 主管学部：創造工学部



ブルジェキャンパス



ブルジェ湖



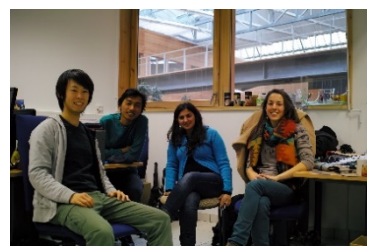
シャンベリーの街並み

## 国際交流の特色

サボア・モンブラン大学は、1979年近隣の各種学校を統合し創設された、学生数13,000人の中規模の国立大学である。8学部と19の研究所からなる総合大学で、法学、経済学、文学、社会学から、工学・科学までの幅広い領域をカバーしている。所在地は、フランスのローヌアルプ地方、隣接するシャンベリー市とアヌシー市に3つのキャンパスがあり、本部はシャンベリーキャンパスにある。2006年にサボア・モンブラン大学の2つの理工科学院が統合し、ポリテク・アヌシー・シャンベリーとなった。2000年4月に学術交流協定を締結以降、国際インターンシッププログラムによって継続的に学生の受入・派遣を行っており、相互に活発な交流が続いている。2008年には、工学部の第1回協定校訪問により、学生17名・教職員5名を派遣して交流を行っている。

## 交流実績（平成28年度～30年度）

年度	H28	H29	H30
受入・派遣			
学生の受入	3	2	1
学生の派遣	0	2	1
研究者・職員の受入	0	0	1
研究者・職員の派遣	0	0	0



国際インターンシップの様子

## 学生からの声

私は2019年9月から約4か月間、サボア・モンブラン大学にて、数理モデルを用いて脳波異常を検出する研究を行いました。英語での進捗報告や、他学生と議論を交わすことによって、自分の考えを英語で表現する力を養うことができたと思います。私が生活していたアヌシーは自然に囲まれ、治安も大変よく安心して過ごすことができましたが、始めは慣れない国での生活や、英語での研究に大きな不安もありました。皆さんもインターンに参加するかどうか考えるときに、同じような不安を感じると思います。しかし、皆さんの限られた学生生活を、他の国を知らないまま終わらせるのは非常にもったいないと思います。私は生まれてからずっと両親と香川で暮らしてきました。何も変化のない生活は非常に楽であると同時に、自分が成長する機会を奪っていたのだと思います。海外で生活をするということは、今まで出会ったことの無い文化や思想に触れる機会が多くあります。理解が難しかったり、対立することもあるでしょう。ですが、相手の育ってきた背景を理解し、受容した時、人として大きく成長できるのだと思います。

工学研究科 伊藤 佑一郎

## 教員からの声

サボア・モンブラン大学ポリテク・アヌシー・シャンベリーとの研究交流は工学部の発足時より続いており、毎年数名の学生の受入と派遣が行われています。当大学の国際交流窓口のPhilippe Bolon教授とは20年以上の親交があり、毎年のように本学を訪れています。私自身は当大学を訪れたことはありませんが、元同僚の教授は2001年以来、共同研究で毎年、訪問していました。そして、戻ってくるたびに、当大学のロケーションの素晴らしさを、「ヨーロッパ随一の透明度を持つアヌシー湖を見下ろす高台のキャンパス。真っ青な空と雄大なアルプスが眼前に広がっている」と表現し、最高の環境で研究できる喜びを伝えてくれました。私の研究室では2014年からほぼ毎年1名の学生を受入れてきましたが、登山、ロッククライミング、トレラン、マウンテンバイク、スキーを楽しむ学生でした。Let's enjoy sports!

創造工学部教授 石井 明